

1989年、ソ連政府はIAEAに対してチェルノブイリ事故の客観的な評価を依頼。実際にはチェルノブイリ事故が起こればすぐにソ連政府とIAEAはコンタクトをとって、世論の火消しに協力し合うムードはつくられていた。



放射能汚染食品などの被害を受けたヨーロッパでも原子力発電に対する信頼は失墜し、原発建設や再処理施設建設案も次々に中止に追い込まれていった。

不安に思うキエフの住民たちの前で重松逸造氏は



移住しなくていいのか……？ 死人も病人も増えているのに

1990年のIAEA調査では、ベラルーシやウクライナの専門家たちがこぞって重松氏にデータを提供。異変が起これることを伝えた。子どもたちを救いたい…一心で。



「広島」の専門家」から、旧ソ連の旧態依然の上層部から子どもたちを救う結論が出てくると思っていたのです。

